

畜産ネットワーク ちば

2009年 1月15日

第14号

発行所 (社) 千葉県畜産協会

〒260-0026

千葉市中央区千葉港4番3号

千葉県畜産会館内

発行人

奥澤 捷貴

年頭のごあいさつ

畜産の更なる飛躍 に向けて



社団法人 千葉県畜産協会

専務理事 松田 延儀

新年あけましておめでとうございます。畜産農家の皆様方、また関係者の皆様方、健やかに良いお年をお迎えのことと存じ上げます。

さて、昨年の畜産を振り返ってみますと飼料価格や資材等の高騰等によりまして平成の畜産危機といわれるほど大変な年でありました。

幸いにして緊急対策が講じられ、それによりまして幾らかでも生産者のご負担が少なくなったというところですが、何れにしても厳しい状況の中での一年間でした。

畜産物価格にしても、全体としては価格の下落が見られたわけですが、価格補償制度が少しは経営の役に立ったのではないかという思いがしています。

さて、畜産協会の昨年一年を見てみますと、緊急対策の確実な実施ということで努力をさせていただきました。現在事業の推進中ですが、関係者の皆様方に大変なご指導いただいたことに感謝を申し上げます。

また、当協会の独自な取り組みとしまして、エコフィードの利活用のご支援がございました。従来から県協会としてこの問題に取り組んでまいりました。具体的には県内にある工場で生産されるエコフィードをいかにして畜産農家に繋げるか、まだまだ多くの課題がありますが、何とかうまく軌道にのせたいと取り組んでまいりました。

家畜衛生では、昨年3月のサーコウィルスワクチンの解禁に伴いましてその効果が出荷頭数の増となって現れてきました。予想されたこととはいえ豚肉価格が低下しましたが、養豚経営の中での生産性向上ということでは大きな効果を感じております。

経営支援の面で見ますと、緊急対策でも取り上げております生産性向上につきましては各地域・各農家の実態調査を進めているところであります。優良事例につきまして取りま

とめた後、その普及について今年から推進していきたいと思っております。

消費者対策では、安全・安心が求められる昨今の状況の中で、消費者の方々に畜産の現場、例えばエコフィード製造の現場、或いは安全・安心に取り組んでいる食肉センター等の視察などを実施しました。現場を見ていただいた消費者の声は「こうやって安全・安心が作られているのだな。」と確認できたという言葉をいただいたところでございます。

その他畜産コンサルタント事業では従来通り実施しておりますが、特に昨年はNPO法人と手を組み、協会が行っている人材バンク事業とリンクしながら各種の調査、或いは畜産農家の支援にあたっているところでございます。

さて、今年ですが飼料価格が1万円強値下げということでのスタートとなりましたが、何れにしても飼料価格は高値の中で推移をしていくと思われます。畜産経営にとってまだまだ厳しい状況が続くこととなりますが、国において引き続き様々な政策が講じられることを望んでいるわけでございます。

また、昨年は当県におきましてもいくつかの法令違反が起きておりますが、やはり畜産農家にとって一番大事なことは安全・安心という大きな目標の中で法令の遵守、コンプライアンスでございます。これは一戸の農家が法令を守らないとその影響は県全体に及ぶことになります。ぜひ、コンプライアンスにつきましては今一度気を引き締めて当たっていただきたいと思っております。

畜産協会もこの3月で5団体の合併から6年が経ちます。まだまだ、課題は沢山ありますが、公益法人改革関連法が昨年の12月1日に施行されました。これを受けて法令の中でのスムーズな公益法人への移行のために現在事務的な作業に取り組もうとしているところでございます。

今年は役員の改選の時期でもあり、その時期をうまくとらえて組織の在り方であるとか、事業の中身であるとか法令が求める理想とする姿にできるだけ近づけるため、法人改革に伴ういくつかの課題について前向きに検討を進めていきたいと思っております。

最後になりますが、今年は丑年でございます。畜産にとって飛躍の年になることを念じて、また、今後とも関係者の皆様方のご支援ご指導をお願い申し上げて年頭のご挨拶にさせていただきます。

も く

- ・年頭のごあいさつ ～畜産の更なる飛躍に向けて～……………(1)
- ・畜産・酪農をめぐる情勢について～その課題と対応～……………(2)
- ・貸付限度額拡大 ～飼料購入資金を低利で融通～……………(4)
- ・1月以降は基金が枯渇!? ～その後の補てんは無し～……………(4)
- ・「畜産の応援団になる！」との力強い声……………(5)
- ・おいしい県産畜産物を優勝馬関係者へ贈呈……………(5)
- ・第46回畜産関係試験研究成果発表会のご案内……………(6)
- ・いよいよオーエスキー病の清浄化への取組開始……………(7)
- ・豚の慢性疾病対策で大きな成果……………(7)

じ

- ・発生時の防疫対応を再確認……………(9)
- ・ウィルスの侵入防止に万全を……………(9)
- ・「平成の畜産危機」をサポート……………(10)
- ・県産豚肉の一層の消費拡大と
生産基盤の強化を目指して……………(11)
- ・県産畜産物をPR 2008年千葉県畜産フェア開催……………(11)
- ・ちば畜産レディネットワーク通信……………(12)
- ・「食の安全・安心」は「法令遵守」から……………(12)
- ・編集後記……………(12)

畜産・酪農をめぐる情勢について —その課題と対応—



千葉県農業協同組合中央会
農業振興部 部長代理 岡田 盛雄

新年あけましておめでとうございます。

本年は丑年であり、我々も牛のように、ゆったりとしかも後下がりなをせず確実に一歩一歩進んで参りたいと思います。

東京大学名誉教授の藤巻正生は肉を食さないマイナスとして、『①アミノ酸構成が劣化する。②鉄が不足する。③1価の不飽和脂肪酸が不足する。④神経伝達物質のセロトニンが不足する。⑤アナンダマイド、L-カルチニンなどの生理活性物質が不足する。』の以上5点をあげられました。

日本人の平均寿命が延びているのと、動物性脂肪の摂取量が増えているのと何らかの因果関係があるかもしれません。

年頭にあたり、現下の飼料価格高騰に苦しむ畜産・酪農の現状と課題について、筆を執らせていただきました。関係者みなさま方のご叱正をいただければ幸いです。

〈生産飼養・状況〉

本県は全国屈指の酪農県であり、安房地域は日本酪農が発祥した地として有名です。現在でも優良な乳牛と恵まれた飼育環境のもとで、安全で美味しい牛乳を生産しております。

豚の飼育も盛んで、系統造成豚をはじめ高能力豚を利用した高品質な豚肉生産が行われています。また、徹底

した衛生管理を行うSPF豚の生産も行われています。採卵鶏の飼育は全国第1位（2008年）で、近年では飼養管理の自動化が急速に進んでいます。

〈危機的な経営にある畜産・酪農〉

配合飼料の原料であるとうもろこしの価格は、3ドル後半から4ドル前後で推移しており、最高値の7ドル台と比べると約半値まで下がってきたものの、飼料高騰前の2ドル台から見ると2倍の高水準です。（図1）飼料価格の高騰は酪農経営にも大きな影響を及ぼし、酪農経営の廃業が続いています。このため、県全体としては増産型の生産目標数量を設定したものの計画を下回っています。（図2）

肉用牛においても、家族労働費ばかりでなく物財費をも下回る収益性の悪化から、緊急対策（補完マルキン）が実施されました。（図3）

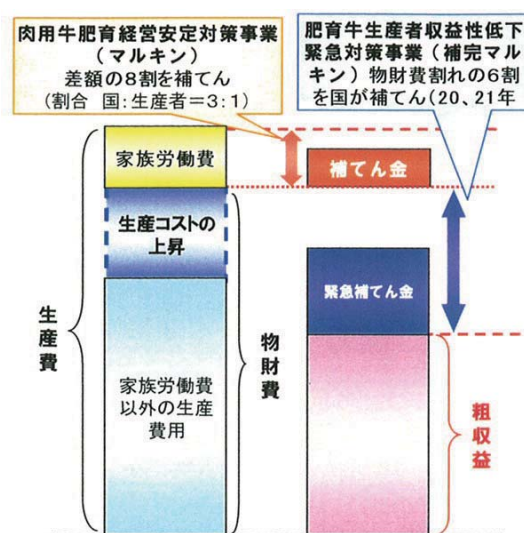


図3 肉用牛肥育経営安定対策事業（マルキン）・肥育牛生産者収益性低下緊急対策事業（補完マルキン）の概要

図1 とうもろこし価格の推移



図2 20年度の生乳生産（販売量と連動）は北海道はほぼ計画生産通り、都府県は計画をかなり下回って推移

受託販売実績対計画比 (%) (4-10月累計)	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	都府県計	合計
	2.9	▲ 4.2	▲ 2.7	▲ 4.0	▲ 4.8	▲ 6.5	▲ 1.3	▲ 2.1	▲ 4.3	▲ 3.6	▲ 0.5

現在、配合飼料価格安定制度による補てんを続けていますが財源が枯渇し、市中銀行から900億円、農畜産業振興機構から350億円を借り入れ対応しています。

2年前と比較し畜産物の生産コストは、配合飼料価格の高騰による影響によって全畜種平均で10～30%上昇しております。畜種別では、養豚・ブロイラー、鶏卵で30%、肉用牛で15%、酪農で10%アップしました。

飼料の高騰を販売価格に転嫁できれば、畜産農家の所得は減少し、再生産が不可能になり、畜産経営からリタイアせざるを得ない状況になります。

〈今後の飼料価格の動向と生産コスト低減・生産性向上の取り組み〉

配合飼料の原材料である飼料穀物は、米国におけるエタノール需要や投機資金の流入により、急騰しました。その後は、世界的な景気減退による海上運賃の引き下げ、サブプライム問題による米国金融機関の損失拡大が表面化しました。今後の気象動向にもよりますが、円高ドル安に転じたことによる為替差益の増加により、飼料穀物価格のこれまで以上の上昇は考えにくい状況にあります。

しかし、WTO農業交渉や日豪EPA交渉等の動きの中で、国際競争力の強化を図っていく必要があります。生産コスト低減・生産性向上の取り組みとして、畜種別にみると次の対応が必要です。

① 酪農

・飼料費節減や飼養管理・飼料生産作業の省力化によるコストダウンの観点から、放牧への取り組みが有効と考えます。これは耕作放棄地の解消につながり、国も21年度予算で放牧推進のために器具・機材導入、簡易施設整備設置、放牧地の造成整備、放牧地の借り入れ、水田への放牧等に助成措置を用意しました。

・牛群検定情報に基づく、栄養管理や過肥防止による受胎率の向上、乳房炎対策の実施や高能力牛群の整備、栄養価の高いとうもろこしサイレージの利用を積極的に行うことにより、低コスト生産が可能になります。

② 肉用牛

・確実な発情発見と適期受精による受胎率の向上飼養環境の改善による肥育牛の飼料要求率の改善や肥育期間の短縮、稲ホールクロップサイレージや国産稲わらの利用によりコスト低減・生産性の向上が図れます。

③ 養豚

・オールイン・オールアウト等の飼養衛生管理の徹底による事故率の低減、エコフィードの積極的利用が考えられます。

④ 養鶏

・暑熱対策等飼養環境の改善による飼料要求率の改善や産肉・産卵成績の向上、エコフィードの利用が考えられます。

〈JAグループ千葉の飼料用米対策〉

本県は潟田という生産環境から、水田を水田として有効活用できる飼料用米の生産を推進しています。

20年度から飼料用米を受け入れる畜産農家との連携を強化してきました。

今後は「飼料用米モデル事業」を、さらに「飼料用米定着化事業」により、飼料用米の生産と利用の地域内需給システムを確立していきます。

〈飼料用米に取り組む意義と課題〉

(稲作農家)

- ・水田の有効利用が可能であること。
- ・通常の稲作栽培体系に沿って生産できること。
- ・農機具など新規投資が不要であること。
- ・水田作は連作障害を引き起こさないこと。

(畜産農家)

- ・国際的な需給変動に左右されることなく、国産の配合飼料原料を安定的に確保できること。
- ・長期保存が可能であること。
- ・特別な設備や手間が不要であること。

課題は、

- ・稲作農家の合意を得ながら、安定した供給計画を策定すること。
- ・稲作農家の手取りアップのため本県の生産環境に適した多収品種の育成確保を図ること。
- ・JA等の保管・流通体制の確立を図ること。

以上のような課題を克服しつつ稲作農家に主食並みの手取りを確保しつつ、畜産農家にはブランド商品としての販路を確保し、経営を安定させることが重要です。

〈飼料価格の高騰に対応した消費者理解対策の向上〉

最後に、飼料価格高騰等の情勢や生産者の生産性向上の取り組みについて、消費の理解を深めてもらうことも重要です。

全農では、毎月29日(肉の日)に国産農畜産物消費拡大キャンペーンを実施しています。

貸付限度額を拡大

～飼料購入資金を低利で融通～

家畜飼料特別支援資金融通事業

1 事業の目的及び内容

配合飼料価格（補てん金を除く農家実質負担価格）が上昇し、生産者の経営努力を踏まえても、生産コストが収益を上回る水準（配合飼料の推定農家実質負担額が47,700円/トンを超える）となった場合、飼料購入に要する資金を発動し、畜産の安定的発展を図ります。

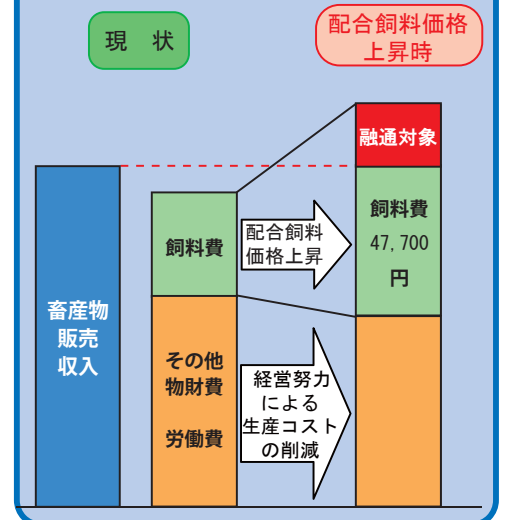
四半期末ごとに（独）農畜産業振興機構が、次期四半期における、推定農家実質負担額及び発動の有無を公表します。

2 この資金の融資を受けるには

借入希望者は、償還計画や生産性向上のための具体的な取組等を示した「生産性向上計画」を、各農林振興センター等の支援を受け作成し、融資機関に提出します。

その後、融資機関は意見を付して都道府県知事に提出し、都道府県知事が計画を承認。融資機関は、承認を受けた計画に対し、家畜飼料特別支援資金を融通します（中央畜産会は、融資機関に対して利子補給を実施）。

家畜飼料特別支援資金の考え方



3 貸付資金の限度額・利率・償還期間等について

①貸付限度額 (単位:千円/頭・100羽)

	新	旧
牛 肥育牛	: 100	← 40
乳用牛	: 50	← 30
繁殖雌牛	: 12	← 8
豚	: 9	← 8
鶏	: 45	← 40

②貸付利率 1. 35% (平成20年12月18日現在)

③償還期間 10年 (うち据置期間3年) 以内

④利子補給率 農業近代化資金の基準金利と貸付利率との差

なお、直近の緊急対策により以下の内容が新たに追加されました。

- ◆ 県酪農協等に対する融資（運用改善）
県酪農協等が一括して資金を借り受け、乳代に飼料費融資分を上乗せし、乳代が高くなる季節に返済を行う方法を新たに措置。（貸付は平成21年3月まで）
- ◆ 都道府県農業信用基金協会が行う債務保証に対する支援
当資金を畜産経営維持安定特別対策事業の対象資金に追加することによる、基金協会の保証に掛かる無担保・無保証人化

4 融資機関

農協、農協連、農林中央金庫、銀行等

5 事業実施期間 平成19～21年度

◎この資金のお問い合わせ各地域の農林振興センター、農協等融資機関
もしくは（社）千葉県畜産協会（TEL043-242-8299）までお問い合わせください。

1 月以降は基金が枯渇!?

～その後の補てんは無し～

肉豚価格差補てん緊急支援特別対策事業

平成20年度の肉豚基金は595,325千円。4～9月までは補てんがなく、10、11月が限度額の45円/kg、12月も30円/kgの補てんとなり合計448,501千円（概算）を取り崩すこととなります。残額は146,823千円（見込）で枯渇の心配が出てきました。国からの追加補助等はなく、対応については関係機関、生産者代表との会議で協議し、今後は基金の残額があるまでは補てんすることとなりました。

なお、平成21年4月以降はまた積立金を集めるので補てんがあれば支払われます。また、養豚経営緊急安定化特別対策事業の150円/頭の補てんは枯渇後でも3月までは市場価格が480円を下回れば支払われます。（総務課 梶屋 健太郎）

補てん状況

月	市場価格 (円)	補てん単価 (円/頭)	補てん額(千円)
10月	413	3,375	169,428
11月	411	3,375	164,608
12月	450	2,250	114,464(概算)
計			448,501(概算)

消費者連会長『畜産の応援団になる！』との力強い声

【畜産物の安全安心に係る相互理解促進のための交流会開催】

消費者や生産者、加工・流通・販売業者等の各段階の関係者が国産食肉に対する理解醸成と消費拡大を図るため、今年度はエコフィードの取組みに着目しエコフィードが食料自給率の向上や循環型社会の構築、ひいては地球環境の保護につながることなどの認識を共有した。

県北西部の消費者と関係者が一堂に会して、旭市の㈱ブライトピック千葉の液状飼料工場と銚子農場等を視察するとともに意見交換を行った。

日本は配合飼料原料の穀物をはじめ、エサの多くを海外に依存している。エコフィードは輸入穀物への依存度を低減させ、今まで捨てられていた食品残さなどの資源循環という点からも注目されている。高騰している飼料用穀類価格の対策や排出業者の焼却などの処理経費の低減、二酸化炭素の排出抑制等につながり、地球環境を守るうえでも期待されている。

液状飼料工場では、飼料米や食品ごみ、食べ残された食材などが運ばれ、種類別に粉碎、スープ状に加工される過程を視察した。工場へ搬入されるまでと搬入されてからの品質管理は徹底しており、液状化されたエコフィード飼料はその日のうちに農場へ運び給与され、品質が劣化することの無い工夫をしていることが分かった。



また、配送先の農場ではその飼料を与えられ丸々太った豚がおいしそうに食べている様子を視察した。

交流会では県畜産アメを手に取りまだ食べられるとの声 総合研究センターの岡崎好子養豚養鶏研究室長から「エコフィードの利用」

をテーマに講演いただいた。

現状、必要性などを説明した上で、エコフィードの給与試験結果について『①発育・飼料要求率は良好②背脂肪は厚くなる傾向③脂肪の締りや肉質問題はない④ロース芯が霜降りになる』と報告した。

昼食では、視察の総仕上げとしてエコフィードを給与した豚肉を試食した。参加者から「試食した豚肉はとてもおいしかった。食品残さの活用は環境にも良いのでぜひ進めてほしい」との感想があった。



豚しゃぶにはハウレンソウが良く合い、箸が進んだ

県消費者連の和田三千代会長は「自給率の向上について、食料争奪の時代の中で政策の転換が必要。エコフィードを給与した豚肉をどこでも購入できるシステムづくりとマスコミへのアピールをお願いしたい。自分達は買い支え、応援団になりたい」と心強い発言があった。

畜産協会ではこのような取組みが正しく理解されるよう継続して理解醸成に向けた取組みを実施する予定ですので、関係する方々のご理解とご支援・ご協力をお願いいたします。

(経営支援課 武田善秀)



交流会ではエコフィードの話を中心にも多くの意見交換が行われた

おいしい県産畜産物を優勝馬関係者へ贈呈

千葉県畜産賞・三里塚特別競走を開催 ～牛乳を来場者へもプレゼント～

平成20年11月21日(金)に船橋競馬場にて千葉県馬事畜産振興協議会による冠レース、平成20年度第8回船橋競馬第10レース千葉県畜産賞・三里塚特別競走(ダート1600m・9頭)が開催されました。

優勝は8枠8番のウツミランカスター号、馬主内海政行氏に賞状及び副賞として若潮牛・房総ポークCの千葉県産食肉セット(10万円相当)及び乳製品(千葉酪農協製)が授与され、坂井騎手、齊藤調教師及び山口厩務員に千葉県産はちみつセット及び乳製品(千葉酪農協製)がそれぞれ授与されました。

当日は、ファンサービスとして千葉酪農協製牛乳200mlパックを先着1,000名様にプレゼントするイベントも同時に実施しました。



(経営支援課 武田 善秀)

表彰式にて(中央)坂井騎手(中央右)齊藤調教師(右)山口厩務員

第46回畜産関係試験研究成果発表会のご案内

千葉県農林水産技術会議畜産部会では、試験研究の成果発表会を開催し、広く関係者の皆様に成果の内容をお知らせするとともに、皆様からの提言を今後の研究成果に反映させたいと考えています。

参加は無料で、事前の申し込みも必要ありません。開催日時、場所、課題名等は下記の通りです。

お誘い合わせの上、多数のご来場をお待ち申し上げております。

(畜産総合研究センター)

＜酪農・肉牛部門＞

日 時：平成21年1月23日(金) 10時20分～15時10分

場 所：さんぶの森文化ホール(さんぶの森公園内)

山武市埴谷1904-5

(TEL 0475-80-9100)



酪農・肉牛部門会場地図

□ 安価な発酵飼料給与による肉用牛の低コスト肥育技術の開発

食品残さを活用した乳酸発酵飼料は肥育牛の嗜好性が良く、發育や枝肉成績は市販配合飼料給与区と同等であった。発酵飼料は高水分食品残さの飼料利用法として有効である。

□ 乳用育成牛へのイタリアンライグラスの多給と配合飼料の給与水準の違いが發育と分娩後の生産性に及ぼす影響

早期授精した乳用育成牛にイタリアンライグラスを多給し、配合飼料を制限しながら分娩予定2ヶ月前まで管理したが、發育も良好で、分娩後の乳生産性も高まる傾向を示した。

□ 飼料イネサイレージの長期収穫・利用体系に対応した収穫調製技術

飼料イネの普及は、高品質サイレージの安定供給と家畜への給与の拡大がポイントとなる。飼料増産に伴う長期の収穫と、通年を目指した長期貯蔵のための技術的方向性を示す。

□ 乳牛への稲発酵粗飼料給与について

今後、酪農家でのイネWCS給与が増加することが予測されるので、県内での給与状況、他県での試験結果や今年度収集したイネWCSサンプル分析結果等を紹介する。

□ ホールクロップサイレージ用の飼料イネ専用品種の特性

実用化された飼料専用品種について、直播栽培により品種比較試験を実施した。各品種の生育特性と収穫成績および飼料成分の特徴を2年間の試験結果から紹介する。

□ 安房地域酪農経営の構造分析

平成16年および平成19年の酪農全国基礎調査に基づき、千葉県内の安房地域における酪農経営の実態と経営内容がどのような要因と構造で決定されているか分析を試みた。

□ メタン発酵消化液由来の液肥を利用したトマトのかん水同時施肥栽培

乳牛ふんを用いたメタン発酵プラントから発生する消化液由来の液肥を半促成トマトにかん水同時施肥すると、慣行の液肥を用いた場合と同等の品質・収量が得られる。

□ 「県産和牛ブランド化推進事業」における採卵及び移植の現状

受精卵移植技術を利用した優良和牛の増頭を図ったところ、2年間で延べ43頭から744個の胚を回収した。300頭に移植を行った結果、157頭の受胎を確認した。

□ 発情後7日目の未経産牛の黄体機能と繁殖成績の関係

発情後7日目の直腸検査によって、人工授精後の受胎状況や発情周期を予測できることを明らかにした。これは、受卵牛の選定方法として有効であることを裏付ける証拠となる。



各試験の給与状況



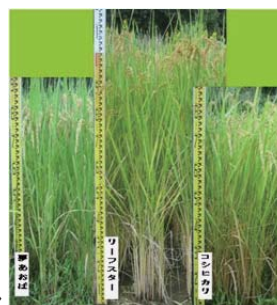
受精卵移植により誕生した和牛



イネWCSの収穫風景



新たに開発された断断型専用
収穫機による飼料イネのロールバール



飼料イネ専用品種の生育状況



液肥を利用したトマトの栽培状況

<養豚部門>

養豚部門会場地図

日 時：平成21年2月17日（火）10時～12時

場 所：印旛合同庁舎2階大会議室（印旛農林振興センター隣）
佐倉市鎭木仲田町8-1（TEL043-483-1128）

□ 止め雄の違いが三元交雑豚LWDの産肉性と肉質へ及ぼす影響

系統豚の有効利用を図るため、止め雄としてユメサクラ、しもふりレッド、サイボクの3系統を交配したLWDの産肉性について比較したところ、ユメサクラの交配は良好な成績であった。

□ 一般農場における乳酸菌製剤投与による事故率低減効果

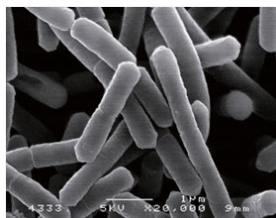
アルコール発酵もろみ中から単離した乳酸菌を一般農場で子豚から出荷まで長期投与したところ、離乳や移動ストレスによる下痢発生や事故率の低減に有効なことが示唆された。

□ 飼料用米の給与形態の違いが肥育豚の発育および肉質に及ぼす影響

2mm以下の粒度に粉碎した玄米および粳米の給与が、肥育豚の発育および肉質、脂質に及ぼす影響を現在調査中であり、その成果の一部を紹介する。

□ 豚の慢性疾病低減に向けた取り組み

平成18年度より一養豚組合10戸を対象にオーエスキー病(AD)清浄化と豚慢性疾病低減に向け、ADワクチンの一斉接種、豚舎の清掃・消毒の徹底等の指導を行ってきた。その概要について紹介する。



試験に用いた乳酸菌

引き続き同会場にて養豚大会が行われます。

平成20年度 千葉県養豚大会 主催：千葉県畜産協会
講演：「エコフィードを利用した効率的な飼料の利用方法について」
「（仮）見直そう、繁殖成績アップはこれだ!!」
みなさんぜひご参加ください。

<養鶏部門>

日 時：平成21年2月10日（火）10時～14時

場 所：成田国際文化会館

成田市土屋303（TEL0476-23-1331）



養鶏部門会場地図

□ 高タンパク質・高脂質エコフィードの採卵鶏飼料への応用

コンビニエンスストアから排出される高タンパク質・高脂質のエコフィードを市販採卵鶏飼料に10%、20%代替し、10カ月に渡り給与した結果、産卵成績は良好な成績を示した。

□ 高タンパク質・高脂質エコフィードと低タンパク質・低脂質エコフィードの大すう期への給与

71～140日齢の鶏群に高タンパク質・高脂質エコフィード17%と低タンパク質・低脂質エコフィード8.5%、高タン10%と低タン5%を給与した結果、良好な結果を得た。

□ エキスパンダークランブル加工飼料配合による採卵鶏の排せつ物量低減化の検討

エキスパンダークランブル加工飼料を5%、10%、15%配合した採卵鶏用配合飼料をジュリアに給与し、排せつ物量及び成分、鶏卵の生産性などに及ぼす影響について調査した。

□ 強制換羽用飼料利用による強制換羽の検討

昨年とは異なる内容の低栄養価の飼料を給与し換羽に導いた結果、白玉卵産出鶏では良好な結果が得られたが、赤玉卵産出鶏では昨年同様改善はみられなかった。

□ 飼料用米の採卵鶏飼料への応用

もみ米60%、30%、玄米60%、30%を配合した飼料を120日齢から採卵鶏に給与し、産卵諸性能などを調査中である。



ジュリアを用いた給与試験

□ 鶏の大腸菌性敗血症による急死症例

高床式ウインドウレス鶏舎の採卵養鶏場において、前駆症状を伴わずに死亡羽数が増加する事例がみられ、HPAIを視野に入れた病性鑑定を実施したところ大腸菌症であった。

□ 採卵鶏の銘柄別性能比較試験

採卵鶏のポリスブラウン、シェーパーブラウン、ゴトウさくら、ハイラインソニア、ジュリア、バブコック、ハイラインマリア、シェーパーEXの8銘柄について育成成績、産卵諸性能、卵質、糞中水分率などを調査した。

同会場で発表終了後引き続き（午後2時30分～）、
平成20年度鶏病研究会千葉県支部第4回研修会を開催
演題 野鳥と高病原性鳥インフルエンザについて
財団法人 自然環境研究センター 米田久美子 研究主幹
（4時終了予定）みなさんそのままご参加ください。

平成20年度関東甲信越地区鶏病技術研修会のご案内

開催日時：平成21年2月25日（水）

午後1:00～5:00

開催会場：千葉県教育会館大ホール

（千葉市中央区中央4-13-10 TEL043-227-6141）

特別講演「鳥インフルエンザ-国内野鳥調査とパンデミックの可能性」

講師：（独）農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所

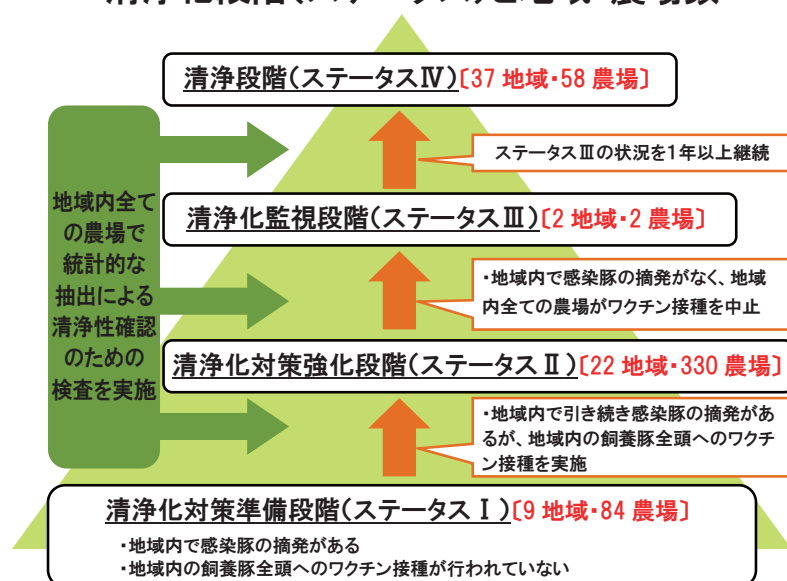
人獣感染症研究チーム 塚本 健司 上席研究員

皆さま奮ってご参加ください。

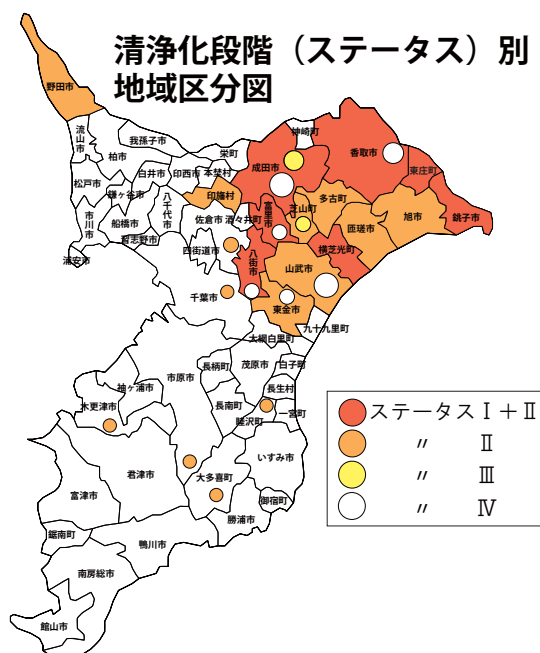
いよいよオーエスキー病の清浄化への取組開始

オーエスキー病の清浄化は地域全体で一斉にワクチン接種を実施することにより清浄化が図られます。地域一丸となった取組が重要です。取組に向けて各地域で家保職員による生産者、市町村担当者はじめ、関係者を交えた話し合いが幾度となく行われました。話し合いでは「消費者は健康な豚からの肉を求めている。」「後継者へ病気を引き継ぐのではなくオーエスキー病の清浄化を図り、夢を託す経営を引き継ごう。」「といった生産者の熱い気持ちと、養豚関係者の強い期待の中、オーエスキー病の清浄化への取組が、昨年12月1日より開始されました。県内オーエスキー病の清浄化への取組状況は次のとおりです。(家畜衛生部 薫田耕平)

清浄化段階(ステータス)と地域・農場数



清浄化段階(ステータス)別地域区分図



豚の慢性疾病対策で大きな成果

平成20年度千葉県家畜保健衛生業績発表会

平成20年12月18日(木)、千葉県教育会館大ホールにて、家畜保健衛生所職員の日常業務の中からの得られた業績についての「千葉県家畜保健衛生業績発表会」が開催されました。北総地域で問題となっている豚の慢性疾病(PCV2やPRRS)対策や、県内では珍しいサルモネラによる搾乳牛の死産の発生事例とその対策など、計16題の発表がありました。

豚の慢性疾病対策の発表では、PCV2ワクチンの使用やステージごとのオールイン・オールアウトの実施は、事故率低減に大変有効な方法であるが、PRRSのコントロールができていない農場ではPCV2のワクチン

ン使用だけでは事故率低減に限度があり、消毒等の日常の衛生管理がなされて、はじめてより大きな効果が上がるとのことでした。

また、今冬も発生が危惧される高病原性鳥インフルエンザに対する危機意識を喚起させるための新たな防疫演習の取り組みや、家畜伝染病発生時の防疫対応等、緊急対応が求められる状況でのシミュレーション的な発表があり、緊急時に家畜保健衛生所が果たす役割の重要性がご理解いただけたのではないかと思います。

なお、選抜された演題の今後の発表予定は次のとおりです。(畜産課 江森 美香)

	日付	開催場所	選出課題	
関東甲信越ブロック家保業績発表会	平成21年2月6日(金)	栃木県宇都宮市 栃木県総合文化センター	「関係者一体となった肥育豚の事故率低減に向けた取り組み」 「マイコプラズマ感染による子牛の関節炎及び中耳炎」 「一養豚場における PRRS による異常産の続発症例」	北部家保 渡邊章俊 中央家保 藤野晴彦 中央家保 松本敦子
関東甲信越地区鶏病技術研修会	平成21年2月25日(水)	千葉市中央区 千葉県教育会館	「育すう期の関節炎を主徴とする <i>Mycoplasma synoviae</i> 感染が鶏の産卵前期に及ぼす影響」	北部家保 青木ふき乃
千葉県獣医学会	平成21年3月1日(日)	千葉市中央区 ホテルグリーンタワー千葉	「流行性脳炎(豚日本脳炎)発生事例」 「筋線維形成不全による splay leg の一例」	東部家保 一円央子 中央家保 関口真樹
関東地区獣医師会連合会三学会	平成21年9月13日(日)	千葉市中央区 ホテルグリーンタワー千葉	「搾乳牛における <i>Salmonella</i> Narashino による死産と清浄化事例」	南部家保 塚原涼子

発生時の防疫対応を再確認

高病原性鳥インフルエンザ防疫演習の開催

わが国の発生は、平成19年1月以来ありませんが、昨年4月には北海道や東北で野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルスが分離されるなど、国内にはすでにウイルスが侵入していることが分かっています。また、アジアをはじめ海外での発生は切れ間なく続いている状況です。

そこで、発生時の対応を再確認する機会として平成20年11月7日（金）千葉県教育会館大ホールにて、高病原性鳥インフルエンザの防疫演習が開催されました。

この演習は平成16年度から毎年行われていますが、今年は、発生時に鶏の処分や焼埋却、消毒などの防疫活動に従事する防疫活動従事者を主な対象とし、二酸化炭素を使用した鶏の殺処分や殺処分後の鶏の焼却・埋却のシミュレーション、殺処分後の農場の消毒など実際の防疫活動について、作業手順や感染防止対策などを事細かに説明しました。

養鶏農家の皆さん方は緊張を強いられる状況が続いていることと思いますが、野鳥が鶏に近づくことのないよう対策をとっていただくと共に、異常があった場合には速やかに家畜保健衛生所へ届け出るよう、今一度お願いします。

（畜産課 江森 美香）



防疫活動時に着用する防疫服の脱着訓練

ウィルスの侵入防止に万全を ～海外で高病原性鳥インフルエンザ猛威～

いよいよ寒気がつのでり空気も乾燥した日が続いています。アジアを中心として海外では昨年10月頃から発生が確認されており、依然として世界各地でのウイルスのまん延が見受けられ、日本への本病の侵入が危惧されています。発生予防のための効果的な手法としては、ウイルスに汚染されている可能性のある全ての人・物・野鳥等からの養鶏場へのウイルスの侵入防止を徹底することが最も重要な対策です。今一度、ご確認をお願いします。

本病が発生すると、発生農家にとどまらず、周辺地域、ひいては日本の養鶏界全体に大きな影響をもたらします。

（家畜衛生部 薫田耕平）

1 人・車両等による侵入の防止対策

- ①農場出入口での対策：農場への人・車両の入場制限、入場車両・物品の消毒
- ②鶏舎出入口での対策：鶏舎専用の衣服等の更衣、消毒槽の設置、器材等洗浄消毒

2 野鳥・野生生物による侵入の防止対策

防鳥ネット・金網の設置、ねずみの侵入防止、農場周囲への消石灰散布、鶏舎の扉の開閉

3 飲用水、飼料の汚染による侵入の防止対策

飲用水・飼料の汚染防止

4 鶏舎内外の整理・整頓・清掃

5 鶏の健康管理及び取扱い

導入鶏の健康の確認、死亡鶏の原因究明及び羽数の確認・処理

6 鶏ふんの処理

十分な発酵、防鳥ネットの設置

海外の発生状況

感染確認日	国・地域名	タイプ	感染確認日	国・地域名	タイプ
20.10	ベトナム	H5N1	20.12.17	台湾	H5N2
20.10.4	韓国	H5N2	20.12.25	デンマーク	H7
20.10.14	ドイツ	H5N1	20.12.25	ベルギー	H5N2
20.11.13	カリフォニア	H5 弱毒	20.12.29	韓国	H5N2
20.12.15	中国 江蘇省	H5N1	21.1.2	韓国	H5N2

「平成の畜産危機」をサポート

NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター

理事長 布施 紘一

新年おめでとうございます。

昨年は飼料価格や燃料の高騰等で様々な問題に悩まされましたが、本年は良い年になりますことを心から祈っております。

さて、私どものNPO法人は、関係者のご支援をいただいて設立登記されてから、間もなく3年目に入ろうとしております。2年目に当たる平成20年度におきましては、社団法人千葉県畜産協会の「畜産人材バンク」と連携することで、微力ではございますが、生産者への支援活動や千葉県畜産協会の事業への参加・協力等に取り組むことができました。この場をお借りして、関係者の皆様に心から厚く御礼申し上げます。

ここに平成20年度における当NPO法人の主な活動状況について、その概要を下記のとおりご報告いたします。

平成21年度におきましては、さらに充実した支援活動に取り組んで参る所存でございますので、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

1. 生産者への支援活動について

酪農・肉牛・養豚部門における飼養技術や経営管理等の支援に取り組みました。

- (1) 酪農部門：定期的な支援活動（4件）
- (2) 肉牛部門： 〃 （1件）…協議中
- (3) 養豚部門： 〃 （1件）

- (3) 「千葉県畜産フェア」において消費者等に畜産を理解してもらうため、「畜産なんでも相談コーナー」を開設しました（参加NPO会員：5名）。
- (4) 「民間活力を活用した畜産技術開発事業」のうち、乳牛繁殖関係の調査に協力。

①牛群検定牛に対する給与飼料と分娩後の授精状況等についての聞き取り（30戸）

②不受胎牛に対する繁殖成績改善のための直腸検査（15戸）

- (5) 「国産飼料資源活用促進総合対策事業」のうち、「地域エコフィード利用体制確立支援」におけるエコフィード製造工場の現地調査に協力（参加NPO会員：3名）

2. 千葉県畜産協会の事業の一部受託及び参加・協力について

- (1) 「人材活用モデル体制整備事業」のうち、人材の需要供給調査を受託しました。

- ①畜産における人材の需要・供給調査（80件）
- ②畜産における人材の紹介マッチング例調査（20件）

- (2) 「畜産生産性向上促進総合対策」のうち、経営に関する下記の調査を受託しました。

- ①先行事例調査（6件）
- ②相談窓口における聞き取り調査（72件）



①先行事例
繁殖和牛における河川敷野草の利用聞き取り調査



②相談窓口設置
経営セミナーにおける相談に応じるNPO会員



(4) 民間活力を活用した畜産技術開発事業における乳牛の繁殖調査

●会員の募集について

支援活動をさらに拡大したいため、幅広く会員を募集しております。つきましては、知り合いの方がおりましたら声をかけてくださるよう、ご協力をお願いいたします。

入会金：個人1,000円 団体5,000円

年会費：個人3,000円（正会員・賛助会員とも） 団体正会員10,000、賛助会員5,000円

県産豚肉の一層の消費拡大と生産基盤の強化を目指して

―ナイスポークチバ推進協議会2008年活動報告会―



出席したご来賓の方々とサポーター会員を囲んで

平成20年12月9日、千葉市内京成ホテルミラマーレにおいて2008年の活動報告会が盛大に開催された。生産コスト上昇の中緊急対策の要請、サーコウクチンの早期承認の獲得、アメリカの養豚専門家を招いて飼料高騰に対する生産性向上のための改良を含めた飼養管理についての講演会などに加え、千葉ロッテマリンスタジアム、千葉市民産業祭、アグリフェスタ

など数々の千葉県産豚肉のPR運動が報告された。また、2006年から県内消費者を対象として、毎年100名のサポーター会員を選定しており、その中から当日15名の会員も出席し、養豚生産者に対する力強いエールが送られた。また、県産豚肉を材料にした料理が並び、中でもダイヤモンドポークを利用した「ももハム」は大変好評であった。

協議会では現在の厳しい経営環境を踏まえ、養豚経営のセフティーネット機能を果たしている「肉豚価格差補てん事業」に対し、来年度に向けて県助成(21年度)を強く要望しております。要望達成のためには生産者の力の結集が必要です。今後WTO交渉が進展し、より厳しい環境が想定されることを考えると、一人一人の生産者が活動に参加し、生産者の大きな団結をもって産業を守っていかねばなりません。生産者の積極的な参加を切望します。

(ナイスポークチバ推進協議会事務局兼養豚部長 加藤脩三)

県産畜産物をPR ～2008年千葉県畜産フェア開催～

昨年10月11日(土)船橋競馬場ふれあい広場に於いて第2回の千葉県畜産フェアが、関係団体、出展団体等の協力、又多数の団体のご協賛を頂き盛大に開催されました。

開会式には、千葉県農林水産部の加藤部長より現状の飼料・資材等高騰に伴う生産者の苦労と安全・安心を消費者に理解して頂き、千葉県の農畜産物を県民に多いにPRして頂きたいと激励のご挨拶をいただきました。

当日は、朝のうち小雨でしたが天候が回復につれて、大勢の県民が訪れ、食べようコーナーでは県産銘柄牛肉・豚肉の焼肉には長い行列ができてとても美味しいと好評でした。

畜産レディースネットワークによる畜産経営のおかれている現状、安全で美味しい畜産物を生産する大変

さを来場者にPR致しました。

県内の畜産の現状をとれだけ知っているか、知ってもらうための畜産ウルトラクイズが3回行われ家族連れなど600人が参加、参加された全員にヨーグルトが配布されるとともに、毎回優勝者には若潮牛肉・準優勝者には房総ポーク豚肉など上位入賞者に各出展団体から豪華な賞品44点が送られました。参加者からは、豪華賞品であったので次回は知識を得て参加したいと好評でした。

又、バター作り、搾乳体験コーナーでは親子連れの参加者でにぎわいました。

これからも千葉県の畜産物を生産者と共に積極的に宣伝し、消費者との交流の場として回を重ねて行きたいと考えておりますのでご支援賜りますようお願い申し上げます。

(調査役 大崎道康)



搾乳体験コーナーに長い列



県産銘柄豚焼肉コーナー



生産者が消費者へ生産状況をPR



ウルトラクイズへの参加者

ちば畜産レディースネットワーク通信

消費者とともに研修会を開催 ～受入牧場に学ぶ～

平成20年12月7日(日)、レディースネットワーク研修会を館山市須藤牧場にて開催しました。当日、会員7名は県内の消費者約30名と一緒にバター作り、搾乳・哺乳等を体験しながら、受入牧場と消費者交流について学習しました。

会員からは「受入を見学して知らないことがたくさんあった」「消費者との交流で力をもらえた」「もっと消費者の意見を聞きたい」など、また消費者からは「牛乳に生産者の思いが詰まっていることがわかった」「畜産物の良さをもっと知りたい」「消費者と生産者が直接つながる流通手段はとれないのか」などの意見がありました。

(事務局 宮上)



説明を聞くときに座るイスは乾草



牛はずっとつま先立ちしていますと説明



搾るミルクは温か～い

すごい勢いで飲む子牛に
圧倒されます

ネットワークについてのお問い合わせは
ちば畜産レディースネットワーク事務局(千葉県畜産協会内・宮上)
TEL: 043-242-8299 FAX: 043-238-1255

「食の安全・安心」は「法令遵守」から

平成13年にBSE患畜牛が本県で初めて発見されてから、消費者はじめ県民の「食の安全・安心」に対する関心が益々高まる中、加工・販売業者等の度重なる食品の偽装表示問題は、生産者をはじめ関係者が一丸となって「食の安全・安心」の確立のために取り組んできた努力を無にしかねません。

しかし、最近、県内生産者の法令違反による不祥事がマスコミ等で報道され、「食の安全・安心」を揺るがす大きな問題となっています。

「食の安全・安心」のための第1歩は、「法令遵守」であることを改めて認識してください。

■畜産経営に係る遵守すべき主な法令■

- | | |
|------------------------------|------------|
| 1 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 | 2 家畜伝染病予防法 |
| 3 家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律 | |

編集後記

みなさま、あけましておめでとうございます。本年も「畜産ネットワークちば」をよろしくお願いいたします。

さて、2008年は正月当初には想像もつかなかったような出来事が続いた一年でした。飼料価格は高騰を続け、恐慌ともいわれる株安が全世界に波及し、原油価格は乱高下しました。また、食品への農薬等の混入事件も大きな衝撃となりました。このような出来事は世の中の大きな変化を十分に感じさせるものでした。

私たちは今、大きな変化のうねりのなかどう対応・変化していくのか、またしなければならぬのか、2009年は大きな転機を迎えているように思えます。そのようなことを思うと、オバマ新大統領の勝利演説で使われた「change」の言葉は印象的です。さらには「Yes, we can.」の言葉と明るい希望をもって、本年に望みたいと思います。(経営支援課 宮上竜也)

総務課	TEL 043-242-5417(代)	FAX 043-238-1255	info@chiba.lin.go.jp
経営支援課	TEL 043-242-8299	FAX 043-238-1255	cb-keiei3@woody.ocn.ne.jp
価格安定課	TEL 043-242-6333	FAX 043-238-1255	tb-koushi@pop21.odn.ne.jp
衛生指導課	TEL 043-241-1738	FAX 043-241-3853	chieishi@aiores.ocn.ne.jp
養豚課	TEL 043-241-3851	FAX 043-241-3853	kato@np-chiba.jp